



稲波脊椎・関節病院の外観①、特室②とシャワー室。天井と壁面からシャワーを出すなど、腰への負担を軽減するようにした

### 稲波脊椎・関節病院が開院

# 全国から患者を見込む



稲波院長

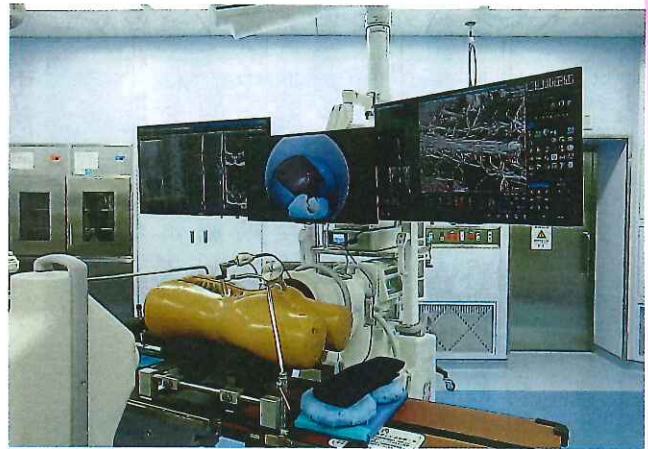
同財団は1990年、岩井整形外科病院を開設。頸椎、胸椎、腰椎の治療で、体力や年齢的に手術を諦めざるを得なかった患者に対して低侵襲手術を行うなど、全国症例数の約10%に当たる年間13000件以上の脊椎内視鏡下手術を施している。近年では全国各地から来院患者が増え、椎治療で豊富な実績を有する院長の稲波医師を筆頭に、日本整形外科学会認定医の湯澤洋平医師と膝前十字靭帯治療の第一人者で、スポーツ外傷・障害の膝疾患治療の専門医の内山英司医師が副院長

## 腰・膝の専門病院

東京・東品川

医療法人財団岩井医療財団(東京都江戸川区、稲波弘彦理事長・院長)は21日、岩井整形外科内科病院に加えて2院目となる腰と膝の専門病院「稲波脊椎・関節病院」(東京都品川区、60床)を開院した。2院合わせて年間3000件以上の脊椎内視鏡下手術の施術を自指し、椎間板ヘルニアや脊髄管狭窄症など、腰痛の悩みを持つ患者の早期復帰を支援する。

常勤医師の体制は、脊髄治療で豊富な実績を有する院長の稲波医師を筆頭に、日本整形外科学会認定医の湯澤洋平医師と膝前十字靭帯治療の第一人者で、スポーツ外傷・障害の膝疾患治療の専門医の内山英司医師が副院長に就任するなど万全の体制を敷いている。内山医師は数多くのトップアスリートの治療を手掛けており、同病院でもスポーツ選手などに対応した治療体制と設備を整えた。「医療の見える化」の実践も同院の特徴で稲波院長の「医療データは公財である」という考えから、過去6000件を超える手術はすべて記録・保管。要望のあった患者へは、手術を撮影したビデオを無編集で提供するなど、開示している。同財団は、「クロスロードからオープンへ」の実践が患者からの信頼度の向上や医療の質、医師の技



同院の手術室。手術台やモニターは、患者や医師の体格などに応じて高さなどを調節できる

## 医療データ活用委員会も

また、岩井整形外科内科病院開設25周年を記念して「医療データ活用委員会」を発足させた。脊椎治療に携わる他院の医師や医療情報の公開について詳しい専門家を招き、手術映像や腰の手術を行った患者の治療成績など、同院で保有する腰痛治療のデータをどのように活用していくか、様々な見地から検討する方針。委員には菊地臣一・福島県立医科大学理事、長・学長、福井次矢・聖路加国際病院院長、川淵孝一・東京医科歯科大学教授、大貫裕一・西村あ

## 在宅医療向け情報共有

クラウドサービスを発売

パナソニックヘルスケアは27日、在宅医療チーム向けの情報共有クラウドサービス「在宅医療共有システムMedicom-Link」を発売する。同サービスを利



小宮事業部長

用することで、在宅患者の日常の健康状態や生活状況、訪問予定などを、セキュリティ品質を確保したクラウド上のシステムで迅速に情報共有できる。発売に先立って行われた説明会で同社メディアコム事業部の小宮宏之・取締役執行役員事業部長は「クラウドを利用して、地域の在宅患者を多職種スタッフが皆でケアするためのインフラシステムだ」と概要を説明、同サービスを通じて医療・介護現場における情報交換や連携不足などの課題を解決し、地域包括ケアシステムの実現を支援していく方針を示した。同サービスは、在宅チーム内の円滑な情報共有に必要な機能をパッケージ化し、バイタル測定値および体調調査訪問時サマリ・服薬状況▽院内・施設内・在宅スタッフ間での申送り連絡事項や患者訪問日時▽訪問看護計画



がんをテーマに写真・絵画コンクールを開催。日本イライリリーはこのほど、第5回イライリリー・オンコロジー・オン・キャンパス「がんと生きる、わたしの物語」絵画コンクールを開催。受賞者の中から、岡田希(愛)が「がんと生きる、わたしの物語」の詩

「在宅医療共有システムMedicom-Link」を発売する。同サービスを利